



2021年4月号

検査室だより

暖かで、穏やかな春の日差しが心地良いこの頃です。桜の花も咲き始めました。新じゃがや新玉ねぎ、エンドウ豆が食卓を彩るようになりました。もうすぐ筍も・・・心躍る春本番です。

今年2月に国立がん研究センターから最新の「がん統計」が発表されました。それによると、2019年にがんで死亡した人は約38万人。そのうち、上位を占めるのは肺がん、大腸がん、胃がんです。また、40歳以上になると消化器系のがん（胃、大腸、肝臓）の罹患（新たにがんと診断されること）が多くを占めるようになります。その中でも、大腸がんは早期発見できたら、ほぼ100%治るといわれています。



大腸がん検診は、大腸がんやポリープなどによる出血が便にまじっていないかを調べる便潜血検査が一般的です。食事制限もなく自宅で便をとるだけの簡単かつ安全で、それほどお金をかけずにできる検査です。がん死亡率を減らす科学的根拠（エビデンス）があり、「毎年この検査を受けることで大腸がんによる死亡が60%以上低くなる」と厚生労働省から報告されています。多くの方が受けたことがあるのではないのでしょうか。では検査結果が「陽性」と出たらどうしましょう。便に血が混じっていたということですから必ず精密検査を受けてください。「痔だでしゃーないわ。」と自己判断はダメです。どこから出血しているのかを確認しなければなりません。多くの場合、精密検査として「大腸内視鏡検査」を行います。その検査は、肛門から内視鏡カメラを入れます。

「はっ！？おしりから！！！」ちょっと恥ずかしいですね。でも初期の大腸がんは無症状です。だからこそ、この検査は必要なのです。鎮静剤を使って痛みを感じずに検査をすることもできます。怖がらずに、恥ずかしがらずに精密検査を受けてください。健康に自信を持って毎日を過ごせるでしょう。



新しい年度が始まり慣れない環境に身を置いている方もいらっしゃると思います。緊張いっぱい、疲れる毎日だと思います。でもそんな時は深呼吸してリラックス。「あわてない、あわてない。一休み、一休み。」



公衆保健協会 検査室

